

クマと食べ物

家の所有者やキャンパー、狩猟者が、クマとの衝突を防ぐためにできる最も重要なことは、クマを人の食べ物から遠ざけることです。

クマに餌をあたえることは違法です

法律には、「誰もヘラジカ、クマ、オオカミ、キツネ、コヨーテあるいはクズリに対して故意に餌を与えてはいけなく、過失によって人およびペットの食べ物やゴミを放置することも、言わばこれらの動物を引き寄せていることになり、これを行ってはならない。」と明記されています。また、不適切な人や動物の食べ物、ゴミの管理によって誘引してしまったクマを殺すことも違法です。



覚えておきましょう：餌付けされたクマは死んでも同然

悪い習慣は直しにくいものですが、クマは「習慣の生き物」といえます。クマは、山野で毎年同じ食べ物を同じ場所に来て探します。人の食べ物を食べることを学習してしまったクマも同じです。彼らは、近所の同じ場所、キャンプ場、そしてゴミ箱に、食べる物がなくなってしまうか殺されるまで、何回でも戻ってきます。

人の食べ物に慣れたクマは攻撃的です

食べ物やゴミの不適切な管理によってクマが餌付くことを許してしまったら、それは他の人を危険にさらしてしまうことになります。



我々が家やキャピンの周りでできること

近所の人と協力しましょう。クマ問題の予防はみんなの責任です

近所のみならず、ゴミ、ドッグフードや鳥の餌（種子）といったクマを誘引しそうなものを、きちんと管理するように働きかけましょう。ゴミ収集日前日の夜にゴミを出すのはやめるように奨励しましょう。もし、クマが近所にいたなら、そのことをみんなに教えましょう。近所の安全を確保し、クマを保護するためにみんなで努力しなければなりません。

ゴミや動物の餌は、頑丈な建物の中かクマ対策のされた容器に入れて保管しましょう

ゴミは、予定された収集日の直前までしっかりと保管しておきましょう。もし、ゴミを収集場所に持っていくなれば、規則に従って捨てるように行きます。ゴミ箱の「中」に入れ、しっかり蓋をしたか確認してください。これらの収集場所はクマを引き寄せます。

ゴミは持ち帰ってください

週末の別荘では、ゴミはクマ対策のされた容器（例えばスチール製のドラム缶に鍵付きの蓋がついているもの）に入れて保管し、持ち帰るようにしましょう。

クマはペットフード、馬の飼料、肉の切れ端や魚が好物です

これらのものは安全な場所に保管しておきましょう。バーベキューも強力な誘引物になります。使った道具は安全な場所に保管しておくか、毎回使用後に油を焼き切ることによって、クマを寄せ付けないことに役立つでしょう。

家庭菜園はクマをおびき寄せないような場所を選びましょう

家庭菜園は、茂みや獣道から離れていて開けた場所に作ることによって、クマが来にくくなります。クマが好きそうなものを肥料にするのは避けましょう。魚や肉は大好物ですし、海草や藻も、その魚臭い匂いがお腹を空かせたクマを十分に惹き付けます。

家畜はクマをおびき寄せます

家畜は安全な場所で飼育しましょう。屋外の囲いで飼われているニワトリやウサギは、簡単に手に入る魅力的な獲物なのです。

電気柵は有効です

電気柵は適切に設計、設置することによって、キャンプ、小屋、家畜、庭、そして堆肥場を守ることが出来ます。

クマ、特にアンカレッジのクロクマは鳥に給餌する種子や脂身を好みます

4月から10月末までは鳥に餌をやらないでください。食べられなかった餌や種かすは、毎年春に餌台を片づけるときにきれいに掃除しておきましょう。



狩猟やキャンプ、ハイキングのときにできること

出発の前に、どうやってクマを食べ物に近づけないか計画を立てましょう

クマがいる地域でキャンプするときは、是非クマ対策のされた容器をキャンピングセットに加えるべきです。容器は主なアウトドア用品店に売っていますし、ほとんどの国立公園ではバックパッカーに携帯が義務づけられています。

キャンプした場所はきれいにしておきます

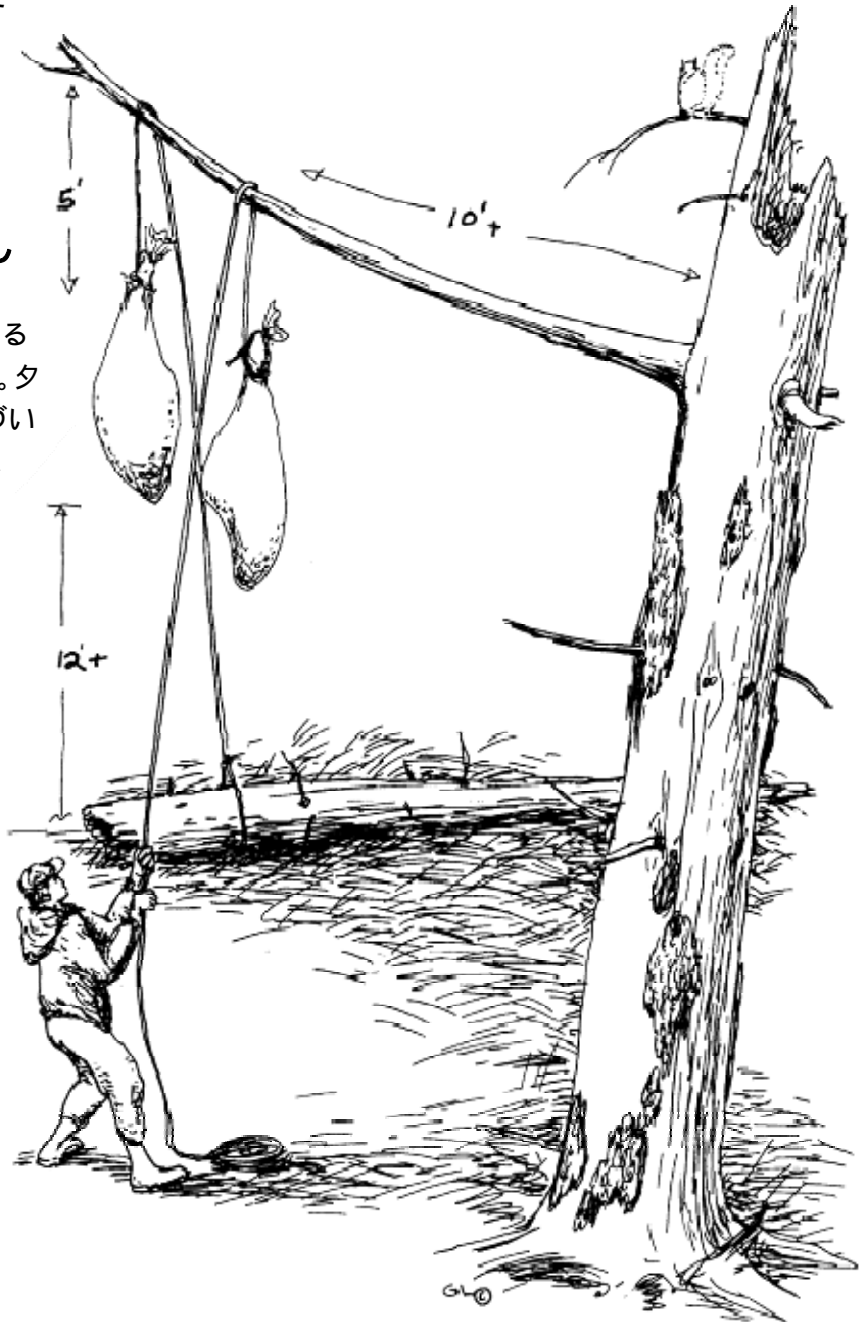
クマが手に入れられそうな場所に食べ物を放置してはいけません。もし可能なら、クマの手が届かない場所に吊り下げるか、クマ対策のされた容器に入れておきましょう。キャンプ場所を離れる場合は、クマが好んで食べそうな物を残してはいけません。もし、食べ物やゴミが安全な場所に保管できないなら、人とクマが活動する場所から遠く離して保管するべきです。

視界が良いところで調理しましょう

こうすることによって、遠くにいるクマを見つける時間を確保出来ます。夕食を調理しているときにクマが近づいて来たらどうするか、考えておきましょう。クマは風下から近づいて来る可能性が高いので、風向きを知っておくことは重要です。経験豊富な野外活動家は、クマが夕食後に匂いを調べに来て、そのときにまだ起きてるようにするため、早めに食事を取ります。一部のバックパッカーなどは、キャンプサイトへ向かう途中で調理して、自分たちが寝る場所は食べ物の匂いがしないようにしています。

匂いの強いものを料理してはいけません

ベーコンは、遠いところにいるクマも寄せ付けます。以前に食べたことがあれば、なおさらです。クマはとても鋭い嗅覚をもっています。クマは偶然に出会った匂いに反応するだけでなく、食べ物を探するために意図的に鼻を使います。



食事や料理をする場所で寝てはいけません

このような場所からは、100ヤード(91m)あるいはそれ以上離れることを勧めます。お菓子、歯磨き粉、化粧品、そして食べ物や獲物の解体で汚れた服は、テントの外の食べ物を置いてある場所に一緒に保管しておきましょう。

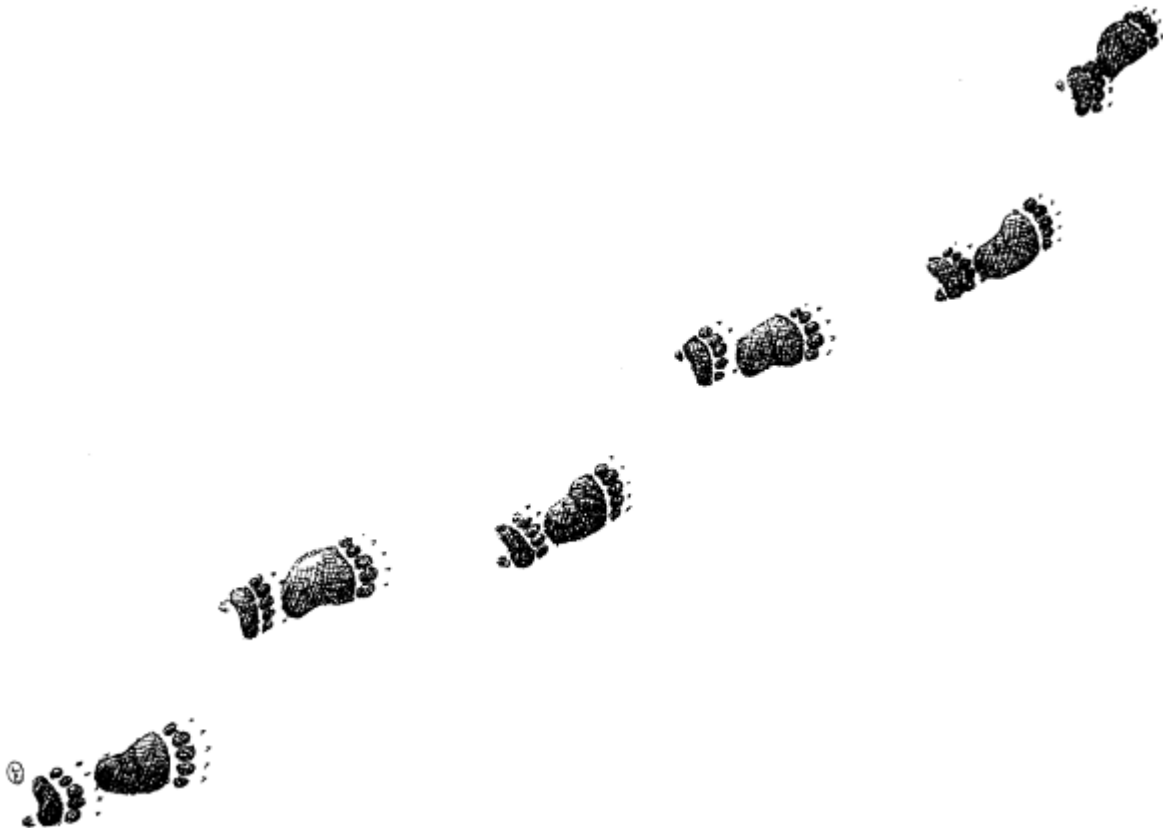
クマのいる場所で釣りをしてはいけません

クマが、あなたの釣り糸にかかった魚が跳ねる音に気づくような場所では、釣りをしないようにしましょう。これは、クマとの距離で言うと数百ヤード(1ヤードは約0.91メートル)かそれ以上です。もし、あなたが釣りをしたい場所でクマが魚を捕っていたら、座ってクマの観察でもしましょう。クマには、あなたが

釣った魚を取られないようにしなければなりません。もし、あなたの糸にかかったサケをクマが追いかけてきたら、糸を切って放しましょう。クマは、簡単に捕れるごちそうと釣り人をすぐに結びつけて考えるようになります。もし、釣った魚をサケのいる川のほとりで処理すれば、カモメをおびき寄せる可能性があります。クマは、鳴いたり旋回したり、あるいはエサを食べているカモメがいる場所には餌があることを知っているのです。クマは走ってやって来るかもしれません。魚の内臓は深い淵か、あるいは速い流れの中に捨て、切った魚はビニール袋に入れましょう。獲物は一緒に持っているべきです。川辺に放置してはいけません。



デビルズクラブ(アメリカハリブキ)の実は、クロクマ、ヒグマ両方が好む食べ物です



観察することができるクマ

クマは、そっとしておくのが一番です。しかし、特定の場所で入念な計画に基づいて行動することによって、クマの観察はクマに対する影響を最小限に押さえ、しかも人にとって非常に有益なものにすることができます。

クマには絶対に近づかないで！

これ程単純なことはありません。周囲の開けた、クマにとって遠くからあなたの姿が見える所に場所を見つけて、座って待ちましょう。隠れてはいけません。クマの通り道の上や、川の岸辺には座らないようにしましょう。クマは歩かないけれども、そこからクマがいそうな場所、例えばスゲが茂った平らなところや、サケがそ上する川、ブルーベリーの群生地が見える所を選びましょう。ボートの上は、クマを観察するのに素晴らしい場所です。

一番安全なクマの観察法は、4人以上のグループで見ることです

大きいグループで観察を行うことによって、クマを威圧することができます。その結果、あなたとクマの両方の安全を確保することができます。グループとは互いが近くにいることであって、そうでなければ「グループ」であることの効果は得られません。

クマ観察における第一のルール：クマの行動を邪魔してはいけません

あなたの存在は、クマにとって一つの学習経験だと考えてください。もし、あなたがクマを見ているときクマが何かしらの反応を返してきたら、あなたはそのクマが持っている人に対する意識や態度を変えているのかもしれない。ほぼ間違いなく、あなたは近づきすぎているのでしょ。そしてもし、クマを怖がらせてしまったら、クマ観察者としては失格です。

毎年、クマが人と遭遇する回数は増えています

あなたが見るクマの全てが、少なくとも幾らかは人に慣れていることを知っておきましょう。多くのクマが、奥地に入るハイカーに慣れてきています。サケがそ上している時期は、沿岸のヒグマは頻繁に釣り人に出会っています。クマは食事をするために、人の存在を我慢することを学習しなければなりません。このような経験をもったクマは、おそらくあなたに気がついてないかのように、かなり近くまでやって来る傾向があります。

予測しやすい行動をとり、その場所にしっかりと立っていきましょう

クマにとって予測しやすい行動をとることは、あなたの責任です。若いクマは、よく人のグループに近づいて攻撃的な振る舞いをすることがあります。このようなクマに対しては、人を移動させることができるという学習をさせないことが重要です。その場所にしっかりと立っていきましょう。クマは頭がいい動物だということを覚えておいてください。彼らは、好奇心が強く、たぶんあなたに興味をもったのです。あなたは彼らを観察しているのだから、彼らにもあなたを観察する権利があります。あなたの行動が、クマが未来において人に遭遇したときの行動を決めるのです。

子グマを連れたメスも近づいてきます

子グマを連れたメスも、クマを観察している人にすぐに慣れます。彼女らも人の集団を気にしなくなりますし、あるいはさらに近づいてくるかもしれません。

クマは、どこでも観察して楽しむことができます

しかし、クマが狩猟者やクマを恐れている住民から保護されている場所で観察するのが、クマと人のお互いのために良いでしょう。これは、道義的な面からも重要なことです。たとえ私たちが意図的にクマを慣らそうとしなくても、クマが勝手に人の存在に慣れてしまうことがあります。人に慣れていて人を餌として連想しないクマは、驚くほど寛容で近くにいても比較的安全です。しかし、この同じクマが、何も知らされていない人にとってはときには脅威となり、しかるべき対応をされてしまうのです。



アラスカにはクマ観察をできる場所がたくさんあります

以下の場所では、管理された状態でクマ観察ができます；

マクニール川州立狩猟動物保護区

ロウワ - クックインレット (アンカレッジから 250 マイル=400km)。
アラスカ州漁業狩猟局が管理。アクセスには必ず許可が必要。ヒグマ。

バック川 アドミラルティー島 (ジュノーの近郊)。アラスカ州漁業狩猟局と合衆国森林局が管理。アクセスには必ず許可が必要。ヒグマ

アナン川 ランゲル。合衆国森林局が管理。ヒグマとクロクマ。

ブルックス川 カトマイ国立公園。ヒグマ。

以下の公園ではクマが保護されており、すばらしいクマの観察を提供しています

キーナイフィヨルド国立公園 クロクマ

カトマイ国立公園 ヒグマ

クラーク湖国立公園 ヒグマとクロクマ

デナリ国立公園 ヒグマとクロクマ

コディアック国立野生生物保護区では、クマの観察について素晴らしい印刷物を発行しています。それには、いつ、保護区内のどこでヒグマ (たくさんのクマがいますが狩猟も行われています) を見ることができるかについて掲載されています。

クマの保護管理計画とその実行

過去から現在に至る人の活動によって北アメリカ全域でクマの生息地は減少してきました。クマの保護管理を成功させるためには、その計画の中にクマと人、そして生息地を包括していなければなりません。

アラスカの人々は、世界でも最後に残された大きなヒグマの集団の一つに対して、その管理責任を負っています

合衆国のヒグマの98%以上、北アメリカのヒグマの70%以上がアラスカに生息しています。アラスカに住む私たちには、まだクマとその生息地を守るチャンスがあります。南部の48州が犯した過ちを繰り返さないようにしなければなりません。

管理の基本は単純です

長く将来に亘ってアラスカのクマを維持しようと思ったら、人為的もしくは自然に死亡するクマの数が、生まれてくるクマの数を上回らないようにしなければなりません。

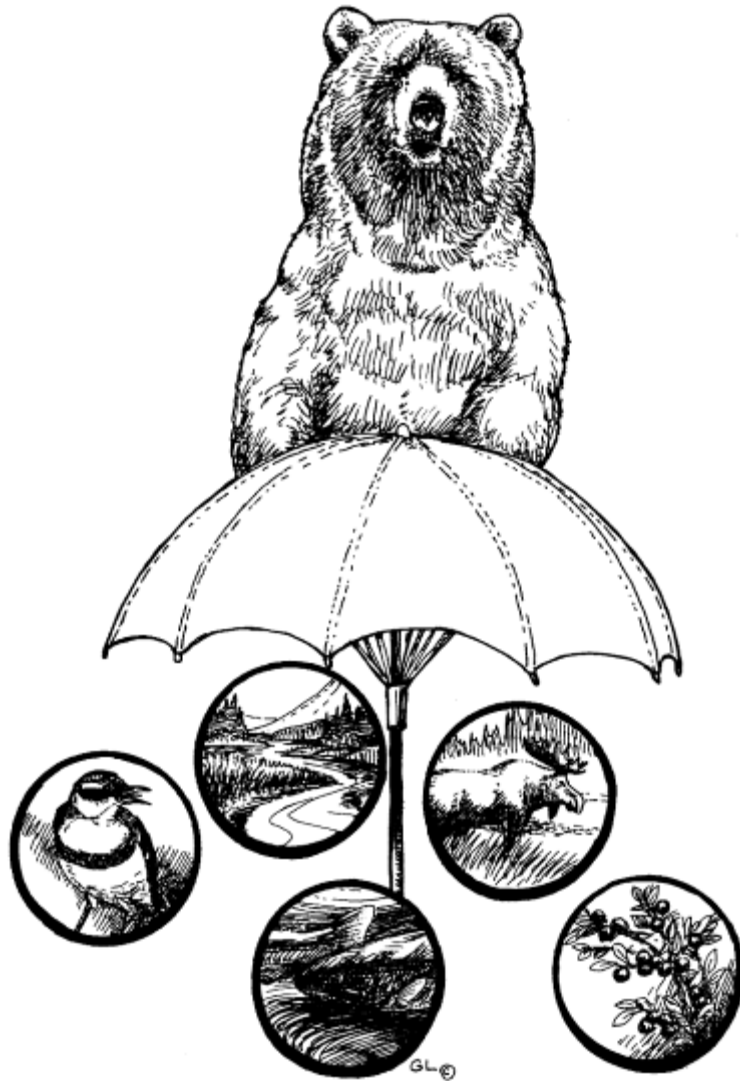
予防的管理が鍵です

クマは繁殖によって増加する割合が低いので、私たちは管理に気を配らなければなりません。狩猟者は、メスの捕獲を避けるために、オスとメスを区別する方法を身につけておくべきです。私たちの判断は、十分な科学的根拠に基づいているべきですし、もし、判断が困難な場合でも、管理官はクマの保護が脅かされないようにすべきです。

計画には先見性が必要です

クマが健全な状態で生息しているうちにクマを維持するための計画を立案するべきです。このことは、経済的にも環境に対しても賢明なことです。減少してしまったクマや他の野生動物に対処するには、再移入や生息地の回復にお金をかけることになり不経済です。先を見据えた計画の例として、キーナイヒグマ保護計画があげられます。この計画は、キーナイ半島に生息するヒグマを将来に向けて確実に残すために作り上げられましたが、これは危機的な状況を回避するために行われた共同作業による努力の結果といえます。





クマの生息地に関する開発を計画する際には、必ずクマの存在を考慮すべきです

人がオフロード車や飛行機を使うことによってクマの生息地に侵入しやすくなったことで、管理官がクマを保護することがより困難になりました。クマに対するかく乱と生息地への侵入を最小限に抑え、傷ついた生息地を回復させること、これらは全てのプロジェクトに組み込まれるべきです。クマを保護し、その生息地が細分化されることを防ぐための最も良い方法は、広大で分断されていない、クマにとって重要な生息地を維持し、保護することです。少数で孤立した状態で生息するクマは、地域的な絶滅に対して最も脆弱なのです。

クマは狩猟の対象にもなります

しかし、私たちは注意してクマの生息数とDLP目的の捕殺（人の生命や財産を守るための捕殺）数を監視し、過剰な捕獲を防がなければなりません。

クマを保護管理することは理にかなっており、クマによいものは生態系にもよいのです

クマは、「アンブレラ（傘）種」の動物です。もし私たちが、クマを維持できるような生息地の管理を行えば、それは、他の野生動物が必要としている生息地を守ることにもなるのです。



キーナイのクマ

キーナイはクロクマとヒグマ両方の生息地です

森が地表を覆い隠しており、クマの生息数を調べることは非常に難しく費用がかかります。ですから、科学的なクマの生息密度推定法は発達していません。しかし、管理官はクロクマ 3,000 頭、ヒグマ 250 ~ 300 頭がキーナイに生息していると推定しています。

キーナイでは、クロクマがよく見られます

クロクマは、カチェマック入り江の南側からスワードまで多数が生息しています。興味深いことに、この地域にヒグマはあまり生息していません。クロクマは、行動範囲が狭いといわれていますが、熟した植物を食べるために長距離を移動することが可能です。ヒグマに比べて繁殖による増加が早いのでその生息数は多く、攻撃的になることが少ないために、人々はこの動物に対してより寛容です。こういったことから、キーナイクロクマはキーナイヒグマよりも安定して生息しています。ただ将来においては、生息地の消失がキーナイでクロクマを保護することの要因になるかもしれません。

ヒグマはサケが産卵する川に引き寄せられます

これまでの調査で、ほとんどのキーナイヒグマが産卵のためにそ上するサケを利用しており、キーナイを流れる支流の間を季節的に移動していることが明らかになっています。

キーナイのヒグマは地理的に孤立しています

キーナイ半島北側は、プリンスウィリアム湾とクック入り江の間が 9 マイル (約 14.5 km) の幅にまで細くなっています。開発と人の活動が、クマがこの地域を移動することを制限している可能性があります。結果として、キーナイヒグマはアラスカの他の地域のヒグマから隔離されているかもしれないのです。キーナイヒグマは、他の地域からのクマの流入によって補充されない可能性があるため、繁殖できる年齢のメスを保護することに注意して管理しなければなりません。

キーナイヒグマは、アラスカ州漁業狩猟局による 1998 年の「特に留意すべき集団」リストに記載されました

リストへの記載は、予防的な方策の一環として行われました。将来起こりうる問題を回避し、キーナイヒグマを未来に残すために、調査や管理の焦点をこの地域に生息するヒグマに合わせることを目的としています。

人の生命や資産を守るための捕殺や、問題を起こすヒグマの数が増加しています

統計によると、キーナイでは過去 10 年間に、人とヒグマの遭遇や人が負傷する件数が増加しています。1998 年以降、2 件の死亡事故も起こっています。公開されている問題のあるクマの報告件数は明らかに増加しており、1999 年には 80 件以上にも上っています。過去 5 年間で年平均 4 頭のクマが、捕殺する代わりに捕獲されて別の場所に移されました。それらのクマの多くが、その後 DLP 動物として撃たれています。10 年前までは毎年 2 - 3 件の DLP が発生していました；1990 年代に入ってからこの数は約 7 頭、言い換えれば狩猟で許可されている数の半分に増加しました。DLP によって殺された個体の多くは、若いクマでした。

人の様々な活動によって、広さ、隠れることができる場所、そして食べ物といったクマの生息地の量と質は改変されています

クマをキーナイの生態系の中に残しておこうとするならば、クマの生息地として必要な条件を十分に考慮しなければなりません。

現在流行しているヤツバキクイムシ*の影響と、それに関連する伐採がクマに与える影響は不明です

しかし、両方のクマのうち特にクロクマは、老齢な森林の林床に生える植物を食べます。これらの植物のひとつがデビルズクラブ（アメリカハリブキ）です。デビルズクラブの実はクロクマにとって非常に重要な食べ物で、夏と秋には、これを食べるために長い距離を移動します。

***訳者注：**春から夏にエゾマツ、アカエゾマツ、ヨーロッパトウヒなどトウヒ属の幹に穴をあける。たいていは新鮮な丸太や風雪害で折れた幹で繁殖するが、時に生立木を加害し枯死させることがある（北海道立林業試験場 HP より抜粋）。

コディアックのクマ

コディアック諸島は3,000頭ほどのヒグマの生息地です

ここに棲むヒグマは、他の地域のものから12,000年にわたって隔離されてきました。クロクマは、生息していません。

コディアック国立野生生物保護区は、1941年にクマの生息地を永久に保護する目的で作られました

保護区はアフォグナック島の一部とコディアック島の南3分の2を含んでいます。さらに、列島の最北端にあるシュウヤック島州立公園が、クマにとって保護された生息地になっています。

コディアックはクマにとって素晴らしい場所です

コディアックは質の高い生息地なので、コディアックのクマは、ヒグマの中でも最も狭い行動圏を持ち最も高い密度で生息しています。コディアックのクマは、栄養価の高い食べ物を求めて長い距離を移動しなくてもよいのです。

コディアックのクマは、アラスカ州漁業狩猟局とコディアック国立野生生物保護区が共同で管理しています

クマの調査研究、管理、生息地の保護、そして健全なサケ資源によって、コディアック島のたいていの地域ではクマの生息数が一定に保たれています。また、場所によってはわずかに増加しています。

クマの狩猟は、経済的に重要です

毎年、ヒグマ319頭分の狩猟を行うための許可に対して、5,000人以上の狩猟者が応募しています。地域住民の狩猟者もそうでない狩猟者も、食べ物を買ったり、道具を買ったり、ボートや飛行機を借りたりあるいはロッジやホテルに泊まったりして、コディアックの経済を支えています。地域住民でない狩猟者は、登録されたガイドが同行しなければならず、一回の猟につき\$15,000(約1,750,000円)程度を支払う必要があります。

コディアックでは毎年、約10頭のクマが人の命や資産を守るために殺されています(DLP)

これらの捕殺によって、狩猟者に捕獲を許可する数を減らすこととなります。DLPで殺されるのは比較的若いクマやメスグマなので、これらの損失がコディアックのヒグマ全体に与える影響は、狩猟者が好んで捕獲する年老いたオスグマよりも大きいのです。

近年、コディアックでは道路沿いでヒグマが増加しています

この増加の理由の一つは、住民のクマに対する態度が変化したことです。コディアックの住民は将来のことを考えたクマの管理を実行しているので、クマを野生のままの状態にすることに一致団結して取り組んできました。合衆国魚類野生生物局、アラスカ州漁業狩猟局、合衆国沿岸警備隊、そしてコディアック市の努力によって、人とクマの不適切な関係を減らすようなゴミの管理体制が作り出されたのです。



アンカレッジのクマ



アンカレッジはユニークな都市です

260,000人以上の人口を抱えるアンカレッジは、世界で唯一その大きさでありながら、市内に多くのヒグマとクロクマが生息する都市です。チューガッシュ州立公園、パイセンテニアル(200周年)公園、フォート・リチャードソンそしてイーグル川溪谷といったクマの生息地が保護されています。

アンカレッジ地域とチューガッシュ州立公園には、少なくとも250頭のクロクマが生息しています

多くのクマは、夏の一部をアンカレッジボウル、イーグル川/チュギアックあるいはガードウッズの住宅地とその周辺で過ごします。この地域のクマは健全な状態で生息しており、増加していると考えられています。

アンカレッジ地域は、60頭ほどのヒグマの生息地です

毎年夏には、住宅地付近で何頭かの目撃があります。ヒグマは、クロクマよりも開発された地域を避ける傾向があります。とはいえ、チューガッシュ州立公園の近くまで住宅地開発が進みクマの数が増えるにつれて、人とクマの遭遇は増えています。

クマによって負傷する可能性はとても低いのです

アンカレッジでは、2,3年に一人がクマによって怪我をしています。クロクマによる死亡者は今まで報告されていません。一方1995年には2人の人が、獲えたヘラジカを守ろうとしたヒグマによって命を落としています。これらと比較して、アンカレッジでは犬に襲われるケースが毎年600件あり、過去10年間に2人がヘラジカに襲われて死亡しています。

アンカレッジボウルとイーグル川溪谷では、20年以上クロクマ猟が禁止されています

警戒心のないクマが町周辺で狩猟されなくなったため、クマの数は増えているかもしれません。ヒグマ猟は1973年以降、アンカレッジボウルとチューガッシュ州立公園では行われていません。狩猟が禁止になった以降の数年間、生息数は増加しました。

アンカレッジ地域には、クマにとって魅力的な生息地があります

ヒグマは春になると、冬の間死んだムースや多数いるムースの子供を狙ってアンカレッジボウルへやってきます。ヒグマはこの地域の川にそ上するサケも食べます。クロクマと同じように、ヒグマもペットやペットフード、家畜、鳥の餌(種)、ゴミなどを食べる場合があります。

人とクマのあつれきは増加しています

数年前まで、アラスカ州漁業狩猟局は、毎夏およそ300件のヒグマやクロクマに関する苦情の電話を受けていました。1998年には、その件数が1,800件にも上りました。

アンカレッジ地域で捕殺されるクマの数は増加しています

1990から1994年にかけて、毎年3頭のクロクマが生命や財産を守るために管理官によって殺されていました。1995から1998年には、この数が9~16頭に増えました。そしてヒグマに関しては、近年毎年1~3頭が殺されています。



アラスカ南西部のクマ

アラスカ南西部では、クマは生息地によってその数と密度が変動します

野生生物管理官は、この広大な地域を次の3つの地域、アラスカ半島、北部プリストル湾およびユーコン - クスコクウィム三角州に分けて管理しています。

アラスカ半島には約 8,000 頭のヒグマが生息しています

そしてさらに、250 頭のヒグマがユニマック島に生息しています。北端の樹木がない地域に沿ってクロクマが生息していますが、アラスカ半島には、大型のヒグマがほぼ独占して生息しています。

ヒグマが濃い密度で生息していることは、干潟の間に広がる草地とサケがそ上する川に深く関連します

コディアックのクマと同様に、これらの食物資源を季節的に利用することによって、アラスカ半島のクマは北米の他の地域のものとは大きく成長し、高い密度で生息することができます。

アラスカ半島は、世界で最高のヒグマ観察ができる場所です

春の間、海辺やその近くでは、貝を掘ったりスゲなどの草を食べたりするクマが普通に観察できます。夏から秋の初めにかけては、期間を通してずっとサケを捕るクマを観察することができます。

アラスカ半島では、毎年狩猟期間に約 300 頭のヒグマが捕獲されます

これら狩猟による捕獲は、アラスカ全体におけるヒグマ捕獲数のおよそ4分の1を占めることになります。

北部プリストル湾のヒグマは中程度の密度です

ナシャゲック、マルチャトナおよびトギアック川排水路のクマは、アラスカ半島ほど多くはありません。島々に生息するヒグマはムースやカリブーを捕食します。

クロクマは北部プリストル湾の森林地帯で見られますが、多くはありません

この地域では、よくヒグマに追われているクロクマを見ることがあります。

ユーコン - クスコクウィム三角州はクマ生息地の端です

この地域のクマの多くは、高台地域に生息しています。一部のヒグマは、ツンドラや低地の河川地帯を利用します。クロクマは内陸の森林地帯に生息しており、この地域で普通には見られません。

アラスカ南西部では、人とクマは複雑な関係を永く保ってきました

ユピック*とアリュート*の人々は、古くからクマを特別な力を持つ強力な精霊として尊敬してきました。Taqukaq (ヒグマ) を追う猟師は、偉大なクマの名を滅多に口に出しません。地方のゴミ捨て場や漁の番屋はクマにとって強力な誘因物となり、しばしばあつれきを引き起こしています。人口の増加と共に、一部の人々はクマを漁業や狩猟の邪魔者として考えるようになりました。



ユピックのクマのマスク

*訳者注：アラスカ先住民族の一つ

アラスカ内陸部のクマ

アラスカの内陸部は、アラスカ山脈の尾根からブルックス山脈の分水嶺まで広がっています

内陸部には、クロクマとヒグマの両方が生息しています。クロクマが森林地帯に多く見られるのに対して、ヒグマは森林とツンドラの両方で見ることができます。

内陸部は南部と比較して植物の生育する期間が短く、そ上するサケなど質の高い食物資源が手に入りにくい場所です。この地域のクマは、この状況に直面しています

食物資源があまり豊富ではないことは、内陸部のクマが小型で低い密度で生息していることを意味しています。内陸部のクマは、キーナイや南東部のヒグマと比べて少数の子グマを出産することが多く、時として性成熟が遅くなります。一般的にアラスカのクロクマは子グマを満1歳で離乳させますが、内陸部に生息するクロクマの行動はヒグマとよく似ていて、子グマを満2歳で離乳させます。

クロクマは、多種多様な食べ物を利用します

彼らは死肉、スギナやベリー類などの新鮮な植物、アリやその他の社会性昆虫、そして成獣のあるいは幼獣の有蹄類を食べ物として利用します。

ヒグマとクロクマは、食べ物と場所をめぐって競争します

クロクマの生息地がヒグマと重なっている場合、他の場所に比べてクロクマの生息数は少ないようです。これは、ヒグマとの競争のためです。

内陸部で行われるクロクマの狩猟は、娯楽と生活のための重要な活動です

クロクマ猟は、たいてい大きな川に沿った場所で行われます。春にフェアバンクス周辺で行われるクロクマの餌付け猟は、レクリエーション活動として成長しつつあります。クロクマは、秋のムースとカリブーの狩猟期間にも捕獲されます。

クマがゴミに誘引されることによって、人とクマとのあつれきが増加しました

アラスカの他の地域と同様に、内陸部の人々にとっても、食べ物やゴミ、ペットフードの保管と処理の仕方が、クマとの不適切な遭遇を避けるための重要な課題となりつつあります。キャンプ小屋、地方のゴミ埋め立て地や漁の番屋が増えるにつれて、これらが問題の原因となっています。

食べ物の不足やゴミの管理が原因で起こる人とクマのあつれきに対する解決策は、既に用意されています

それでも内陸部では、人々の活動の変化と問題の解決にかかる費用が、あつれきに打ち勝つための障害となっています。



アラスカ北部と西部のクマ

アラスカの3分の1が、ベーリング海、チュクチ海とポーフォート海に接しています

この地域に居住する人々の大部分が、カクトビック、バロー、コツェビュー、ノーム、ベセル、そして70を越える小さな村に居住する、イヌピアック*とユピックです。この広大な地域は、アラスカで見ることのできる全ての種類のクマ、つまりクロクマ、ヒグマそしてホッキョクグマの生息地でもあります。

*訳者注：アラスカ先住民族の一つ

クロクマは、海岸から離れた内陸部とブルックス山脈南斜面の森林地帯に限定して生息しています

この地域のクロクマは、生息地の質によって様々な密度で生息しています。ユーコンやコブック川排水路など、一部の場所では比較的普通に見られます。

ヒグマは、ベーリング海の島々を除く全ての地域に生息しています

アラスカ州で最も低い密度で生息しているポーフォート海沿岸のヒグマをはじめ、この地域のヒグマの生息密度は、アラスカ半島やコディアックと比較して低くなっています。クマの生息数は、食べ物が豊富であることから多くの地域で着実に増加しているように見えます。

ホッキョクグマは海氷の上や近接した沿岸の陸地に生息しており、アザラシや死肉を食べています

アラスカに生息するホッキョクグマの数は4,000~7,000頭で、1972年に狩猟が禁止されてからはゆっくりと増加してきました。ホッキョクグマは、地域の住民によって非常に尊敬されています。一部の村では、市街地からクマを遠ざけるためのパトロールを続けています。山脈の北斜面で働く人々は、ホッキョクグマから身を守るために狩猟者を雇っています。

人は3種類全てのクマを重要な資源として利用します

この地域の住民は、肉と脂肪、毛皮のために、クロクマとヒグマを捕獲します。ヒグマは、ガイド付き狩猟の対象にもなっています。アラスカ先住民だけが、ホッキョクグマを捕獲することができます。バローでは、ガイド付きのホッキョクグマ観察ができます。

ヒグマは頻繁に議論の種になります

多くの人々が、ヒグマを大物猟の対象として、あるいは原生の象徴としてその価値を認めています。地域住民は、昔から畏敬と尊敬の念を持ってヒグマを見つめて来ましたが、人口が増えるにしたがって危険で迷惑なものと考えようになりました。ヒグマは、人々が生活のために獲った魚を食べたり、狩猟や娯楽、採掘のための仮設の宿舎に損害を与えたりすることがあります。このようなクマは、人を驚かせることがあっても滅多に傷つけることはありません。しかしながら、クマが引き起こす問題は、結果としてクマの数を減らせという要望を大衆から引き出してしまふことがよくあります。一部の地域では、ヒグマはムースとカリブーにとっての重要な捕食者でもあると考えられます。

伝統的に、ヒグマの狩猟に関する規制は保守的です

最近になってヒグマの狩猟に対する規制は緩和されるようになりましたが、一部の地域では依然として頻繁に密猟が行われています。地域住民によって正しく規則に従った狩猟と生命や財産を守るための捕獲が行われるように、村単位での調査を実施する必要があると考えられます。

人とクマのあつれきを減少させるためには、教育と食べ物やゴミの適正な管理が必要です

これまでに、地域社会、仮設の宿舎や工場の敷地内で、不適切に管理された食べ物やゴミに慣れてしまったヒグマが殺されてきました。責任を持って食べ物やゴミを管理することや、公的機関や商業機関に対して廃棄物処理の規則遵守を義務づけることは、これらの場所で殺されるクマの数を減らすのに役立つでしょう。

アラスカ南東部のクマ

カナダとの国境からアイシー湾に広がるアラスカ南東部の本土と島々には、推定 6,000 頭のヒグマと 17,000 頭のクロクマが生息しています

ヒグマとクロクマの両方が、この地域のほぼ全域で観察されます。北側の A B C 諸島（アドミラルティ、パラノフおよびチチャゴフ）にはヒグマだけが生息しています。南側の島々にはクロクマだけが生息しています。

「A B C 諸島」のヒグマは、本土やアラスカのどの地域のクマとも遺伝的に異なります
一つの仮説として、彼らが最終氷期の間に隔離された系統の生き残りだと考えられています。

この地域のほとんどが密な森林に覆われており、クマの数を数えることは難しく、そして多額の予算を必要とします

この地域に生息するクマの数は、科学的な方法を用いて、いくらか少数の地域で調べられたクマの密度から推定されています。これらの研究から、アラスカ南東部の島々におけるヒグマとクロクマの密度が本土よりも高いこと、そして、島々に生息するヒグマの密度は世界的に見ても最も高い部類に入ることが示されています。

南東部のクマにとってサケは重要な食物資源です

サケをいつまでも豊富にそ上させることは、健全な状態でクマが生息するための鍵を握っています。

粗末なゴミの管理によって人とクマのあつれきが増加しました

過去 10 年間に、ジュノー、ペテルスブルグとケチカン（クロクマ）そしてシトカ（ヒグマ）では、人の出すゴミがクマを誘引することによって、人とクマの間のあつれきが増加しました。クマによる襲撃は起こりませんでした。この間に多くのクマが殺され、政府機関は人の食べ物に慣れたクマによる危険や問題に取り組むために、何千ドルもの費用を使いました。



地方のゴミ埋め立て地はクマを引き寄せます

ハイダー、フーナ、アングーンやヤクタットといった小さな集落では、ゴミ埋め立て地にやって来るヒグマと長年に亘って共存してきました。最近、一人の人がゴミ埋め立て地に頻りにやって来るヒグマに殺されました。予算と連携がないことは、地域社会でゴミ慣れしたクマの問題を解決する際の大きな障害となっています。

人の活動は、アラスカ南東部のクマに様々な形で影響を与えます

伐採、採鉱、道路建設、狩猟、釣りや観光などが一頭一頭のクマあるいはこの地域のクマ全体にどのような影響を与えるかということが、新たな問題になっています。いくつかの地域においては地元住民以外の狩猟者による狩猟が増加しており、懸念が増大しています。

北海道のクマ

北海道のヒグマは日本最大の陸棲哺乳類です

本州にはツキノワグマだけが、そして北海道にはヒグマだけが生息しています。ヒグマは、離島を除く北海道のほぼ全域に分布しており、狩猟者からのアンケートによって推定した生息数は約 1,800～3,500 頭といわれています。生息地の多くが広葉樹の林あるいは針広混交林に覆われており、このことが科学的な生息数の推定を難しくしています。

道南地域におけるオスの体重は平均 128kg、メスは 82kg という報告があります。道央や道東地域のもはやや大型であるといわれています。知床半島では 400kg のオスが捕獲された記録が残っています。

北海道のヒグマには 3 系統があります

遺伝子の研究から北海道には、道北・道央、道東、道南に分布する 3 つの系統があることが分かっています。また、道北・道央のヒグマは東ヨーロッパ、主に知床半島に分布する道東のヒグマは東アラスカのヒグマと近縁であることも分かっています。

主な食べ物は植物です

北海道のヒグマは、春から夏にかけて主にフキやセリ科の植物を、秋にはヤマブドウやコクワといった果実やドングリを食べています。動物質のものとしてはアリやハチなどの昆虫類やザリガニを食べますが、近年エゾシカが増加した道東地域を中心に、シカを食べる個体が増えています。また、一部のサケがそ上する河川ではサケを利用するものもいます。

農作物やゴミなど人の生活に関連する食べ物も、一年を通して利用します。

人とヒグマのあつれきは増加しています

ヒグマは北海道の開拓が始まって以来、人の生活を脅かす存在として扱われてきました。このため 1960 年代、1970 年代には春グマ駆除制度を導入して積極的にヒグマを捕獲し、1990 年代には生息数が減少してしまった地域も報告されるようになりました。それに伴ってあつれきの頻度も減っていきましたが、その後は農業被害や人家近くへの出没が増加し、捕獲されるヒグマの数も増えています。この背景には、ヒグマに対する正しい知識が欠如していることによる不適切な関係、例えばゴミや食べ物が適切に管理されていないことによって、クマが人慣れしてしまうことなどがあると考えられています。

捕獲されるヒグマのほとんどが有害駆除です

春グマ駆除の廃止後のあつれきの増加によって、近年では捕獲されるヒグマのほとんどが夏から秋の有害駆除によるものになっています。かつて春グマ駆除が盛んに行われた渡島半島地域では、春グマ駆除が実施されていた 1966 年から 1987 年には、捕獲総数の半数以上が 4 月、5 月に集中していました。それに対して、この制度が廃止された 1990 年以降はこの時期の捕獲数が全体の 20% 以下に減少し、その一方で 8 月以降の捕獲数が全体の半数以上を占めるようになっていきます。北海道におけるヒグマの猟期は 10 月から 1 月までで、ヒグマの冬眠時期と重なっていることも、狩猟による捕獲が少ないことの要因となっています。

知床半島のヒグマは観察できる可能性があります

北海道のほとんどの地域では、ヒグマは人を避けるように生活しているため、その姿を観察することは容易ではありません。生息地の多くが人の生活圏と隣接しており、あつれきを避けるためにこのような行動を取るようになったものと考えられています。例外的に、知床半島では地形的な要因もあり、人慣れしたヒグマを観察できる可能性があります。しかしながら、実現するためには観察のルール作りや

観察する人の教育など、様々な課題があるのも事実です。

札幌市は世界中のクマが生息している都市のうちで、最も人口密度が高い都市です

札幌市には 189 万人が住んでいながらヒグマの生息地を抱えています。近年ヒグマの分布する地域が拡大するに従って、あつれきの増大が懸念されています。

アイヌの人々はヒグマを神として尊敬してきました

古来、アイヌの人々は自然と折り合いをつけながら生きてきました。ヒグマは自然を象徴する神であり、その圧倒的な力を畏敬の念を持つと共に毛皮や肉を提供してくれる重要な存在でした。アイヌの人々が持っていた、ヒグマに関する様々な儀式や風習は失われつつありますが、その背景にある自然観は後世に引き継いでいかなければなりません。現在を生きるわれわれにとってヒグマとの付き合い方を示す貴重な知恵となるはずです。

推薦書

DeBruyn, Terry D. 1999. **Walking with Bears**. New York, N.Y. The Lyons Press.

巧妙で正確な、そして重要なクロクマの生態の説明。複雑なクマの行動を理解したい人たちの必読本

Herrero Stephen. 1985. **Bear Attacks: Their Causes and Avoidance**. New York, N.Y. Nick Lyons Books.

世界のトップエキスパートがクマと人との係わり合いを記した著名な本

Lynch, Wayne. 1993. **Bears: Monarchs of the Northern Wilderness**. Seattle, Washington. The Mountaineers.

クロクマ、ヒグマ、ホッキョクグマの生物学と環境学について記述

Murie, Adolph. 1981. **The Grizzlies of Mount McKinley**. Seattle, Washington. University of Washington Press.

アメリカの偉大な生物学者の一人による、ヒグマについての素敵で洞察力のある一冊

Smith, Dave. 1997. **Back Country Bear Basics: A Definitive Guide to Avoiding Unpleasant Encounters**. Seattle, Washington. The Mountaineers.

クマのいるフィールドへ出かける人への一番のおすすめ。クマが生息する地域での安全について書かれたものでこれ以上のものはない

Walker, Tom. 1993. **River of Bears**. Stillwater, Minnesota. Voyageur Press.

アラスカのマクニール川に生息するヒグマについて書かれた、有益で素晴らしい本

岡田秀明・山中正実．2001．しれとこライブラリー 3 知床のほ乳類 ヒグマ．北海道新聞社．

知床半島のヒグマの生態とヒグマを取り巻く問題について詳しく書かれた本。北海道の他の地域にも非常に参考になる内容。

天野哲也・増田隆一・間野 勉．2006．ヒグマ学入門．北海道大学出版会．

ヒグマの生態、進化から人類史との係わり、現代社会における問題まで、幅広く斬新な切り口でヒグマを取り上げた内容。

ビデオ

Alt, Gary. 1996. **On the Trail of Pennsylvania's Black Bears**. Pennsylvania Game Commission. 2001 Elmerten Avenue, Harrisburg, Pa. 17110 (717)787-7015

クロクマの行動、生態および習性について

Stonorov, Derek and Zatz, Daniel. 1997. **Way of the Bear in Alaska**. Distributed by Bullfrog Films, P.O. Box 149, Oley, Pa. 19547. 1-800-543-3764, <http://www.bullfrogfilms.com>.

ヒグマの行動に注目した受賞フィルム作品

Alaska Department of Fish and Game and British Broadcasting Company. 1993. **A Gathering of**

Bears. Distributed by Alaska Video Postcards. Anchorage, Alaska.

アラスカのマクニール川州立野生生物保護区で行われているクマ観察プログラムについての素晴らしい作品

Safety in Bear Country Society in co-operation with the International Association for Bear Research and Management. 2001. **Staying Safe in Bear Country.** Distributed by Magic Lantern communications Ltd., Tront, Ontario, Canada. 1-800-667-1500, www.magiclantern.ca.

クマに関わる安全について、手に入れることのできる最高のフィルム。クマの生息地での生活、娯楽および仕事に関する重要な教育手段。ほとんどの合衆国魚類野生生物局で貸し出し可能。

Yukon Government Department of Renewable Resources. 1990. **Take a Closer Look.** Distributed by the Yukon Fish and Game Association, Whitehorse, Yukon. 867-667-4263. yfga@sportyukon.com. 保
全に熱心で、メスや若いクマを殺したくない狩猟者必見のフィルム。ほとんどの合衆国魚類野生生物局
で貸し出し可能。

NPO 法人自然教育促進会 . 2006 . **ヒグマとともに ~ヒグマ教育用ビデオ~** .

ヒグマの生態をはじめ生息地での注意やヒグマをめぐる問題を防ぐ方法について、具体的にわかりやすく解説しています。

クマとの調和した暮らし

2008年3月4日 発行

著 者 Derek Stonorov

イラスト Gary Lyon

編集 Nancy Lord

寄 稿 John Schoen

日本語訳 釣賀一二三・間野 勉

(北海道環境科学研究センター)

発 行 ©National Audubon Society

日本語版作成 北方圏フォーラムヒグマワーキンググループ



アラスカ州政府日本支局提供

